



妊娠中・授乳中のお母さんへ

お母さんとしては、ご自分の痛みはもちろんですが、それよりも歯科治療をすることによりお子さんに影響があるのか？の方が気になることではないでしょうか。我が子を守るため当然の疑問と思われれます。

妊娠中のお母さんへ

妊娠初期にあたる4週から7週は、注射が必要な処置を控えた方がいいでしょう。この時期は、中枢神経・心臓・手足などの重要な臓器の形成期です。逆に歯医者さんからは、確認ができないので必ず教えてください。妊娠安定期にあたる4ヶ月から8ヶ月は、基本的に歯科治療によるお子さんへの影響はほぼないと言われてはいますが、本院では、出産後に伸ばせる治療に関しては行いません。

授乳中のお母さんへ

本院では、抗菌剤、痛み止め、レントゲン撮影や注射が必要な場合は、事前に説明の上、授乳後すぐの来院をお願いしています。治療を終えて半日経てば、ほぼ体から治療の効果がなくなっていますのでお子さんにも安心です。さらに心配ということであれば、その日は、母乳をやめ、人工乳を与える、前もって母乳を搾乳しておき冷蔵庫に保管することをお勧めしています。



1) 歯ぐきの腫れ

普段と変わらない歯みがきをしていても歯ぐきが腫れることがあります。これは、当然です。夜間の授乳による不眠や疲労の蓄積などのストレスにより、お母さん自身の体力が落ちているためわずかな汚れの取り残しでも腫れてしまうのです。そのため、本院では、気晴らしに、定期的な受診を進め取り残した汚れを取り除かせていただきます。原因と治療方法を提示して、実践しても改善しなければ、抗菌剤の投与も検討します。



2) むし歯

注射が必要な場合は、上記の<説明内容>に準じて進めますが、かぶせ物や詰め物が取れたなど軽度の場合は、通常の治療で大丈夫かと思われれます。激しい痛みの場合は、レーザー併用や歯に鎮痛作用のある薬を詰めるなどの応急処置を行います。その後、要相談です。



3) 親知らず

痛みの原因が、歯の汚れやむし歯であれば上記の1) 2) に準じます。痛みが治まっても短期間で繰り返し再発してしまいますケースは、中核病院にて抜歯を提案しています。



本院では、小さな子供を持つ、または見ているスタッフばかりですので、お子さんを預かってくれるところが無いので歯科医院を受診できないとお考えのお母さんがいましたら、連絡ください。事前の予約をいただければ、可能な限り他の患者さんに迷惑がかからない時間を設定させていただきます。いずれにしても、思った以上に体力低下の自覚がないかと思いますが、わずかな汚れで、歯肉炎にむし歯になってしまいますので、定期検査をお勧めいたします。